

市民アンケート調査について

茂原市立小中学校の再編に関するアンケート実施概要（案）

1. 目的 平成 29 年 3 月に策定した茂原市学校再編基本計画の計画期間が令和 7 年度をもって満了することから、次期基本計画を作成するに当たり、市内小中学校の児童生徒数の推移等の状況や、それに伴う課題等を提示した上で、市民の学校再編に対する考えを把握するために実施する。
2. 実施主体 茂原市教育委員会
3. 実施対象者

(1) 各小中学校保護者	5,336 人 (R6. 5. 1 現在)
・ 小学校の保護者	3,425 人
・ 中学校の保護者	1,911 人
(2) 就学前児童の保護者	1,804 人 (R6. 5. 1 現在) ※私立含む
・ 保育所（園）の保護者	770 人
・ 幼稚園の保護者	269 人
・ 認定こども園の保護者	765 人
(3) 地域住民代表（各自治会長）	235 人 (R6. 5. 1 現在)
4. 実施方法

・ アンケート用紙に二次元コードを表記し、インターネットでの回答も可能とする。
・ (1)(2) は、各施設を通じて、(3) は自治会長宛てに配付する。
5. 実施時期 10 月中に実施し、第 2 回審議会までに集計する。

(案)

茂原市立小中学校の再編に関するアンケート調査 ご協力をお願い

日頃から茂原市の教育行政に対しご理解ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、茂原市教育委員会では、子供たちにとってより良い教育環境を確保するため、平成 29 年 3 月に学校再編に係る基本的な考え方を定めた「茂原市学校再編基本計画」を策定しました。この基本計画に基づき、具体的な学校再編を進めるため平成 30 年 3 月に「茂原市学校再編第一次実施計画」を、令和 4 年 1 月に「茂原市学校再編第二次実施計画」を策定し、学校再編の取組を進めています。

現在の学校再編基本計画は令和 7 年度をもって満了となりますが、今後も少子化等による児童生徒数の減少によって小規模化する学校が見込まれることから、引き続き、子供たちの将来を考え、学びの質の向上を含めたより良い教育環境を確保していく必要があります。

そこで、市教育委員会では、次期学校再編基本計画の策定に向けて、学校再編に係る基本的な考え方について調査審議を行っていただくよう本年 9 月に「茂原市学校再編審議会」に諮問しており、その資料とするため、小・中学校の保護者、就学前児童の保護者及び地域住民の方々に対し、アンケートを実施することといたしました。

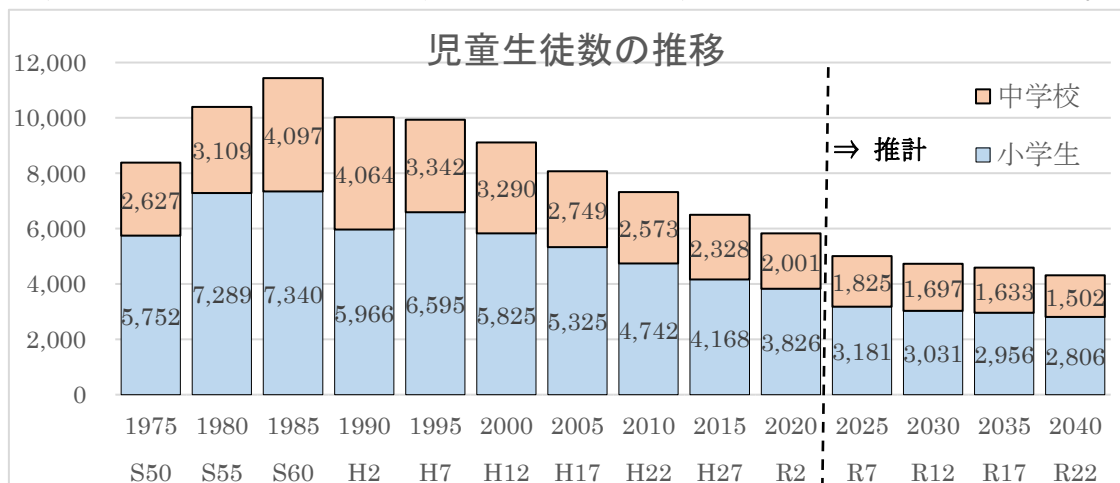
皆さまにおかれましては、以下に記載した現状を把握していただき、率直な意見を伺いたいと存じますので、ご協力のほどよろしくお願いします。

令和 6 年 9 月

茂原市教育委員会

1. 茂原市の児童生徒数について

令和 6 年度の小学生は 3,425 人、中学生は 1,911 人で、それぞれピーク時の半分以下に減少しており、今後も減少が続くものと見込まれます。



※2025 年以降は「茂原市人口ビジョン(令和 3 年 3 月)」の基礎数値による推計

2. 小規模校の課題等について

児童生徒数が少ない場合には、教員の目がゆきとどき、きめ細かな指導が行いやすく、発表したりリーダーを務めたりする機会が多くなるなどのメリットがあります。

しかし、現代の学校教育では、これまでの多くの知識の習得を目的とした一方向・一斉型の授業だけでなく、探究的な学習や体験活動などを通して、友だちと共に考えることで思考力・判断力・表現力などを育成していくような学びの充実が求められており、そのためには、一定の集団規模を確保する必要があります。

学校が小規模化することにより、以下のような課題が考えられます。

- ・協働的な学びで、多様な学習形態をとることが難しくなる。
- ・児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい。
- ・多様なものの見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しい。
- ・教員と児童生徒との心理的距離が近くなりすぎる。など。

また、学級数が少なくなるに従い、配置される教職員数も少なくなることから以下のような課題が考えられます。

- ・児童生徒の良さが多面的に評価されにくくなる可能性がある。
- ・グループ別指導や専科指導などの多様な指導方法をとることが困難となる。
- ・中学校では免許外指導の教科が生まれる可能性がある。など。

3. 小中学校の適正規模について

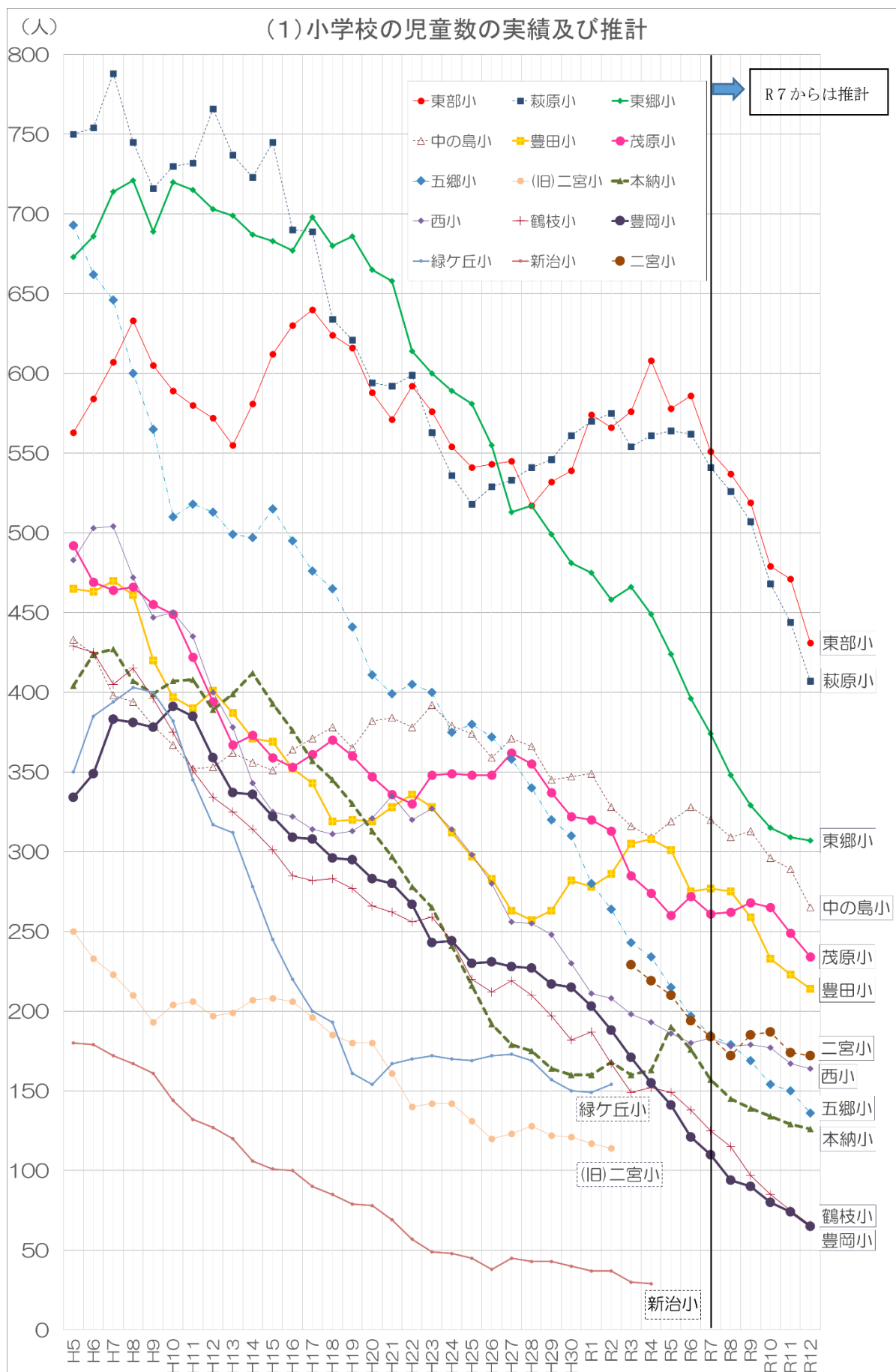
文部科学省では、平成 27 年 1 月に「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」を策定しました。

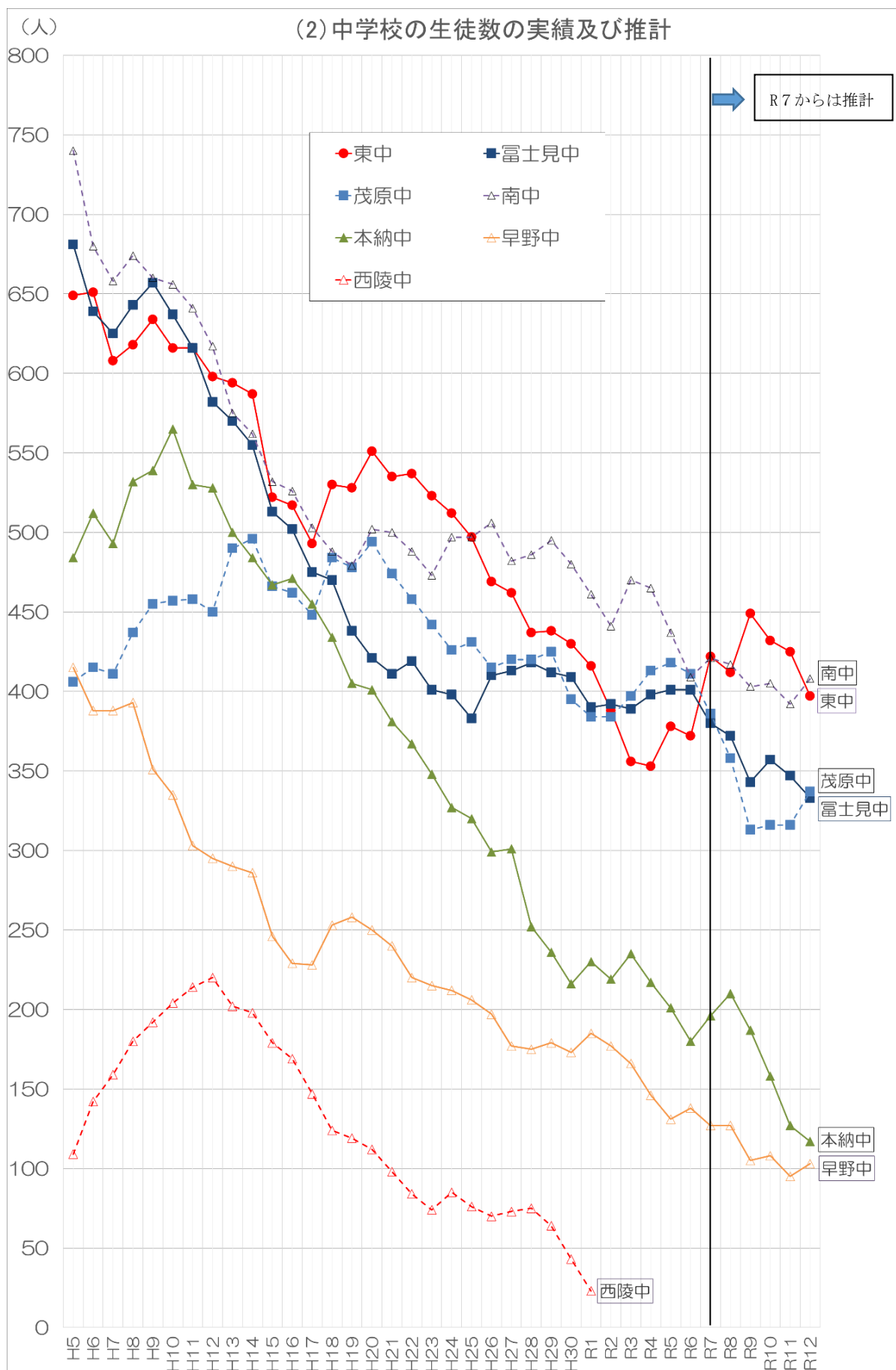
これを受け、茂原市教育委員会では、平成 27 年 3 月に小中学校の適正規模を以下のとおり定めました。

小学校	12 学級以上 18 学級以下（1 学年 2 ～ 3 学級）
中学校	9 学級以上 18 学級以下（1 学年 3 ～ 6 学級）
※ただし、特別支援学級の学級数は除く。	

4. 小中学校ごとの児童生徒数の推移について

次の表は、学校ごとの児童生徒数のこれまでの実績と令和 12 年度までの推計を表したものです。令和 6 年 5 月 1 日時点で適正規模を満たす学校は、小学校が 12 校中 6 校（東部小、萩原小、東郷小、中の島小、豊田小、茂原小）、中学校が 6 校中 4 校（茂原中、南中、富士見中、東中）となっています。





(案)

茂原市立小中学校の再編に関するアンケート調査

Q 1 お子さまが通学している（通学する予定の）中学校を選んで○をつけてください。

【(自治会長用) 自治会区域内にお住いの子供たちが通学する中学校を選んで○をつけてください。(複数選択可)】

1. 東中学校
2. 富士見中学校
3. 茂原中学校
4. 南中学校
5. 本納中学校
6. 早野中学校

Q 2 小学校を統廃合する目安として、学校・学級の規模はどの程度が適当と考えますか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んで○をつけてください。

1. 適正規模（学年2学級程度）を下回ったとき
2. 各学年1学級で、1学級あたり18人程度になったとき
3. 各学年1学級で、1学級あたり10人程度になったとき
4. 複式学級*が生じる規模（1学級あたり8人程度）になったとき
5. 極力、統廃合はしない

千葉県の基準
(小学校)

全学年1学級 35人

* 複数の学年（例えば5年生と6年生）を合わせて1つの学級とするもの

Q 3 中学校を統廃合する目安として、学校・学級の規模はどの程度が適当と考えますか。あなたの考えに最も近いものを1つ選んで○をつけてください。

1. 適正規模（学年3学級程度）を下回ったとき
2. 各学年2学級を下回ったとき
3. 各学年1学級で、1学級あたり20人程度になったとき
4. 各学年1学級で、1学級あたり10人程度になったとき
5. 複式学級が生じる規模（1学級あたり8人程度）になったとき
6. 極力、統廃合はしない

千葉県の基準
(中学校)

1学年は1学級 35人
2・3学年は1学級 38人

Q 4 小・中学校の統廃合を検討することになった場合、配慮してほしい点は何ですか。あなたの考えにあてはまるもの上位3つ以内に○をつけてください。

1. 統合後の学校の教育活動の充実
2. 環境変化による児童生徒への影響
3. 自宅から学校までの距離や通学時間
4. 児童生徒の通学手段や通学道路の安全確保
5. 統合後の学校の建物や施設の整備
6. 保護者や地域住民との十分な協議
7. 地域の拠点機能の継承（防災拠点、文化・スポーツ活動拠点、地域交流拠点など）
8. 学校の伝統や地域文化の継承
9. 閉校する学校の跡地利用
10. その他（ ）

Q 5 茂原市では、中学校区ごとに目指す子供像を共有し、9年間の連続性を大切にした小中一貫教育を推進しています。

あなたの学校（中学校区）では、どのような教育を中心にして学校教育の充実に取り組んでほしいと考えますか。あてはまるもの3つ以内に○をつけてください。

1. 学び合いや他者と問題解決に取り組む協働的な学び
2. 子供たちの多様化への対応とつまずきの解消を図る個別最適な学び
3. 外国語の確実な習得
4. コミュニケーション能力の育成
5. タブレットパソコンなどのICT活用
6. 郷土・地域について学ぶ「茂原学」
7. 理科や算数・数学などを中心としたSTEAM教育*
8. 豊かな情操を育む芸術（音楽、美術など）
9. 健康な心身を育む保健体育や体力づくり
10. 豊かな心を育む福祉教育や道徳教育
11. プログラミング教育や情報活用能力の育成
12. 探究学習や問題解決能力の育成
13. わからない
14. その他（ ）

* 科学・技術・工学・芸術・数学の5つの領域を対象とした理数教育に創造性教育を加えた教育理念

Q 6 その他、学校再編に関する意見があればご自由にお書きください。

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。